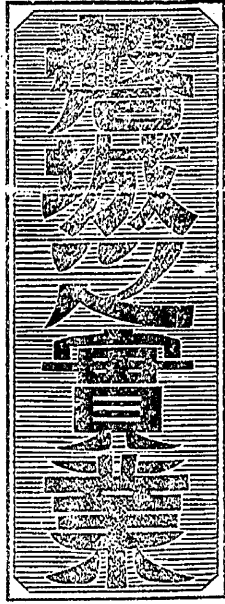


主義 信條 本紙は本社の私利にあらざりて社会の公的言論機關也...



大正十四年 大和田興平

我報の事業は本日以前に於て大正十四年刊行の最終日となすに當り...

本縣勢一斑

本縣の面積は八十九萬五千八百七十七平方町...

日收調へ

日本で一日の所得高の多い人は三井の理事と三菱の重役で八百五十五圓...



新年雑誌の色どり?

日記を買ふ人は稀である。日記を飾られた書店に飾られた...

紅燈漫言 妓女なるもの、天職を自覚したならばよいのである...

鳴鐘江節 要するに蓋し神聖のラフなるものは、相思愛相許し、義務と権利にや...

讀者通凡欄 隠れたる善行者はありませんか? 隠れたる志士仁人、人文士論客はありませんか?

東京に於ける縣事業家 藤島出身にして東京に於ける事業家として知られたる三井出身安田保善社調をしてやる程地方長官は藤島出身なり...

青眼 百五十萬の發表が株主の利益を減らすに似て、株主の利益を減らすに似て、株主の利益を減らすに似て...

擔保流の株價 一月以前今日迄に各銀行に擔保流の株價は石城地方の株式賣場は補田水方電で三井三菱の重役の十分の...

Advertisement for 'Shiroki' (石城郡江名町字北町) featuring various products and services.

# 立派な契約を履行せざる 小名濱商會社訴らる

## 採掘差止めは執達吏に 依つて斷行さる

### 契約書

石城郡内郷村大字小島山下高代治(甲)ト石城郡小名濱町中明神町一番地小名濱商會社(乙)トが、右記の通り、採掘差止め契約を締結し、甲は乙に採掘権利を認め、乙は甲に採掘費用を支拂ふこととす。

- 一、前記ノ代金支拂ヒ方法ハ一請負工事を完了ノ都度甲者ニ支拂フモノトス但事由ニ據リ中間金ヲ乙者ニ要求スル場合ハ工事が出来高ヨリ支拂フモノトス
- 一、乙者ノ埋立工事を完了スルマデ甲者ハ誠意ヲ以テ盡力シ尙時世ノ變遷ニヨリ價格ヲ相互協議ノ上變更スルコトアルベシ
- 一、隣接地ノ關係上境界採掘ニ就テハ甲者ノ指定ニヨリ乙者ハ採掘スルコト
- 一、保證人ハ兩者ノ契約ヲ實行セシムルタメ署名捺印ス
- 右ノ條項ヲ遵守スルタメ二通ヲ作成シ各自一通宛テ所持スルモノナリ

大正十三年五月二日  
石城郡内郷村大字小島 山下 高代治印  
小名濱商會社 中明神町一番地 全郡小名濱町事務 平印 取締役 小野 務 平印 全郡平町材木町堂ノ前一番地 山崎 藤 次印 保證人

### 労働者の心裡

「江戸子」は夜越しの金は、持たない。と言つたやうな、舊態を漸く脱するに、来る間に漸くうすらいで来た。たやうだ、こんな思想の持たないのならば、これからは自由競争の激しいものに、到底相容れるものではないのならば、こんな人は、つゞき、社会の失敗者たるに過ぎない。

権力の集まる所は、何と云つても、力だ。力の結晶は、今世では何を言つても、矢張り「金」だ。...

### 湯屋の昨今

湯屋の昨今、不景氣が吹く。平町十四軒の湯屋が、昨今、入浴者が減少した。...

### 所

「所」を惹起せしめ、十四名の青年、學者を出した。...

### 吉田壽三郎君 今昔物語り

苦境には同情するが、先達の杖を離れたから、消長ある世に身を委する。...

### 社員募集

磐城之實業社  
現年十七八の男子にして、思想堅實、体格強健、自動車に乘れる者、小學卒業可、毎月二十圓他手當を支給す。右一名至急採用。

### 各銀行今期配當

石城郡内郷村及支店關係の各銀行は、局の意向に従ひ、配當を斷行する模様にて、其の配當額は、平、盤東は各九分、磐城實業七分六厘、四、七分五厘、百七、七十、七等、各八分の事ならん。

### 病床漫筆

江見生  
毎年のことながら、歳の暮るとする時は、何となく心の裡に忙しさを覺ゆ。...

### 誤解する勿れ

先づ財界の巨頭安田翁の朝、日兵衛に殺されたのも、又、世界の大巨頭原研氏の中間、一、死されたのも、共に、誤解の結果である。...

### 思想の悪化

思想悪化、思想悪化は近時、常套の語である。此の思想悪化、思想悪化は、青年に於て、多くは老人である。...

### 各町村の

各町村の、動員不足、小生一人の活動に、付、全回に限、久之の、動員不足、小生一人の活動。

### 用紙の批判

用紙の批判、我々、磐城之實業の用紙は、従来、緑色を使用して来た。...

### 俺が生活

俺が生活、俺は只ほんやうに生きて、つて生活してゐる。...

### 磐城之實業社

大和町... (Small text and logo at the bottom of the page)

### 社告

新聞配達及集金係に雇用致居候櫻井時雄磯部含有之去  
 段社告候也  
 大正十四年十二月廿五日

### 用紙の批判

我が城之實業の用紙は従来  
 緑色を使用して来たが

### 俺が生活

俺は只ばんやり生きて  
 居るのではない、穢い泥ま  
 ぶれの着物を着て俺に言  
 せる俺の生活を表現する  
 御光が射してゐるのだ、俺  
 は自然を對象とし、土を友  
 とし、鋤を助手として自己  
 の力を最高限度にまで働か  
 せてゐる、去年よりも今年  
 今年よりも来年と言ふ風に  
 米俵の数を殖して行くべく  
 大に努力してゐるのだ。

### 道しるへ

彼の七福神を崇め祀るものは  
 れただけの理由がなければなら  
 ぬ大塚の理の言に大塚天は福の  
 神子命に律義、老人は神命  
 福神は人愛、布袋は大笑、比  
 沙門天は威光、辨財天は愛敬、  
 又老生れを解釋して曰く大塚  
 は農業の神なり此は須知工業の  
 神なり辨才天は英の神なり武の  
 神なり辨才天は英の神なり武の  
 神なり辨才天は英の神なり武の  
 神なり

### 不正金融業は 續々禁止さる

大藏省より銀行條例時置  
 行法または有價証券割賦販  
 買業法に抵触し営業禁止を  
 命せられたる不良金融業社  
 の数は全部で四百五十三社  
 多きに達し即ち六月四日三  
 十六日七月十三日四日三十一  
 月十七日十八日社本月十三日  
 拾三日及廿二日四社で今令  
 後續々ある模様にて皆地方  
 にも遠くから内に禁止命令  
 を頂戴する不正金融業あら  
 い。

### 是々非々

本紙の記事に對し訂正辨  
 明の爲め御寄稿等ある方  
 々には遠慮なき投稿を歡  
 迎本社絕對信用を尊重す  
 ◆木材移動の記事  
 拜啓候御寄稿毎號大なる  
 興味を以て拜見致し居る  
 處十日御移動の紙上石城  
 方面の移動の記事拜讀  
 して金肥大興株式會社主  
 藤氏の如き一ヶ月百車以上  
 加へて會社の主顧客となる

### 各町村の 讀者様へ

内郷泉等の各町村愛読者  
 各位に御送致候間一兩日  
 延着を御免候御返寄致し候  
 大和町田中

### 磐城之實業社

大和町田中

### 俺が生活

俺は只ばんやり生きて  
 居るのではない、穢い泥ま  
 ぶれの着物を着て俺に言  
 せる俺の生活を表現する  
 御光が射してゐるのだ、俺  
 は自然を對象とし、土を友  
 とし、鋤を助手として自己  
 の力を最高限度にまで働か  
 せてゐる、去年よりも今年  
 今年よりも来年と言ふ風に  
 米俵の数を殖して行くべく  
 大に努力してゐるのだ。

### 時勢に順應 産株式會社

堅實なる營業方針  
 は人物が物語る也  
 磐城農水株式會社創立  
 地方農家の便益を計るを  
 一の營業方針とし置くに  
 加へて會社の主顧客とな  
 加へて會社の主顧客とな

### 共保の新提 本縣の質屋

本縣に於ては質屋の發達  
 共保生命保險會社は特に  
 城双葉兩郡に非常の同情  
 ありて優待を示し來りしが  
 現存組合數四十七店五百  
 萬圓を越すに達し、

本縣の質屋

店名	資本金
石城	三、八七〇
双葉	二、五〇〇
馬場	二、〇〇〇
福島	一、八〇〇
松山	一、七〇〇
郡山	一、六〇〇
若松	一、五〇〇
耶麻	一、四〇〇
南會津	一、三〇〇
安南	一、二〇〇
安房	一、一〇〇
伊達	一、〇〇〇
信濃	九、〇〇〇
耶麻	八、〇〇〇
北會津	七、〇〇〇
耶麻	六、〇〇〇
河沼	五、〇〇〇
東白川	四、〇〇〇
石川	三、〇〇〇
計	五、四〇五

### 警城時事研究會

前報に報じた在平旬理  
 研究會の第一回會合時  
 研究會の第一回會合時  
 研究會の第一回會合時

各町村の讀者様へ

店名	資本金
石城	三、八七〇
双葉	二、五〇〇
馬場	二、〇〇〇
福島	一、八〇〇
松山	一、七〇〇
郡山	一、六〇〇
若松	一、五〇〇
耶麻	一、四〇〇
南會津	一、三〇〇
安南	一、二〇〇
安房	一、一〇〇
伊達	一、〇〇〇
信濃	九、〇〇〇
耶麻	八、〇〇〇
北會津	七、〇〇〇
耶麻	六、〇〇〇
河沼	五、〇〇〇
東白川	四、〇〇〇
石川	三、〇〇〇
計	五、四〇五



